

## 「川崎医学会誌」投稿規定

1. 投稿者は原則として川崎医学会会員に限るが、会員外からの投稿も認める場合がある。ただし会員外からの投稿論文の掲載に要した費用はすべて著者負担とする。
2. 原著および症例報告を主とし、総説等も含む。他雑誌に投稿、掲載されておらず、またその予定のないものとする。
3. 原稿はワープロでA4の用紙に印字し、フロッピーを添えて提出することを原則とする。提出部数は3部（2部コピー、但し写真は3部とも原図）とする。手書き原稿の場合は市販の400字詰め原稿用紙を用い、青または黒インクで楷書書きにすること。
4. 外国語、薬品名は日本語で慣用されているもの以外は原語を用いる。
5. 図は黒インクまたは墨で清書した原図またはその写真版とする。図・表・写真の大きさは台紙とも40 cm × 30 cm 以内とし、でき上がり寸法は1枚9 cm × 6.5 cm を基準とする。図・表の表題と説明は英文、和文どちらでも良い。組織標本写真には必ず染色法と倍率をつける。
6. 度量衡の単位はl, dl, ml, kg, g, mg,  $\mu$ g, ng, m, cm, mm,  $\mu$ m, nm, hr, min, sec等を用いる。
7. 引用文献は本論文に用いられたものだけをあげ、引用番号は引用順による。引用文献の記載方法は下記の例に従うこと。引用文献の著者氏名は全員を書く。

雑誌

- 1) Ford LE, Huxley AF, Simmons RM: Tension transients during the rise of tetanic tension in frog muscle fibres. J Physiol (Lond) 372: 595-609, 1986
- 2) 沢山俊民: 弁膜疾患の変遷－当科入院患者24年間での検討－. 川崎医学会誌 24: 207-210, 1998

単行本

- 1) Brock S, Krieger HP: The Basis of Clinical Neurology. 8th ed, Baltimore, Williams and Wilkins. 1963, pp 53-85
- 2) 臼居敏仁: 病理学的検査法, 「新しい毒性試験と安全性の評価」(白須泰彦, 松岡 理編), 第2版, 東京, ソフトサイエンス社, 1978, pp 231-280

本文中における文献引用は、次のように記載する。

例: 高橋ら<sup>1)</sup>は……

……ことが指摘されている<sup>2), 3), 5)~7)</sup>

8. 略題 (running title) は和文とし、30字以内とする。
9. 和文抄録に対応する500語以内の欧文抄録をつける。その題名は欧語20語以内とし、末尾に **Key words** (5語以内) をつける。
10. 掲載論文の別刷は30部まで無料とし、それを超えるものについては有料とする (実費)。
11. 原著は刷り上がり6頁を超える場合、症例報告は6頁を超える場合、総説は8頁を超える場合、その他は4頁を超える場合超過料金を徴収する。(文字のみであれば上記3の原稿4枚で約1頁となる)。カラー版は全額著者負担とする。なお、校正時、原文に著しい訂正をした場合には実費を徴収する。
12. 提出された論文の掲載の決定は編集委員会が行う。
13. 原稿宛先は「川崎医学会機関誌編集委員会」とする。
14. 本誌に掲載された論文、抄録、記事等の著作権は、川崎医学会に帰属する。